

白山・美濃禅定道 石徹白探訪

白山開山の祖泰澄大師の歴史を学ぶ

二十三年九月二十日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

9月17-18日、岐阜県、石徹白（いとしろ）を訪れました。富士山、立山と並び日本三名山に数えられる白山。石徹白はその周辺に広がる白山国立公園の南山麓に位置する小さな集落です。平安時代から鎌倉時代にかけての白山信仰が盛んな時代には「上り千人、下り千人、宿に千人」と言われるほど修験者の出入りで栄えた土地でした。養老元年（717）に白山開山を決意した泰澄大師が、母の生誕地である勝山市南部の地から白山の頂上に登り、御前峰、大汝、別山の三つ峰で、それぞれ神と仏の本来の姿を知ったことが伝えられています。「大師堂」にある「虚空像菩薩」は国定重要文化財に指定され、これは当時奥州を支配していた「藤原 秀衡」の寄贈とされています。泰澄大師が白山を開山して以後、そこは山岳修行の霊場、靈験あらたかな観音の聖地として発展していくことになります。



石徹白の大杉をバックに



霊峰白山・中居神社



白山登山口



37km 神駆道ゴール



大師堂・虚空像菩薩



大師堂・虚空像菩薩